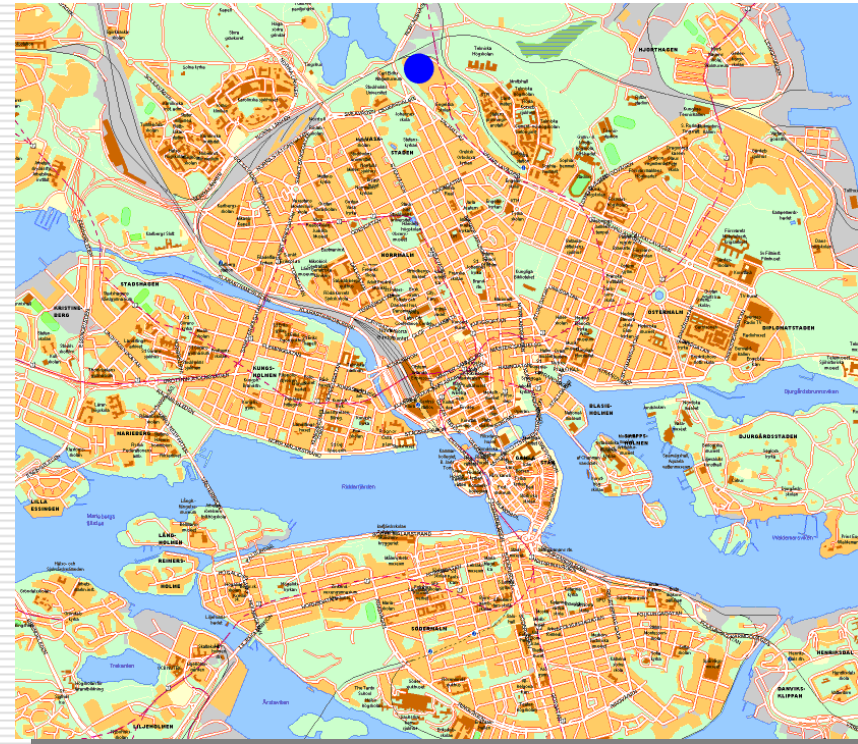


# ストックホルムの自治体の事例紹介

- 首都ストックホルムのエコタウン再開発プロジェクト(ハンマルビィ・ショースタッド)
- 渋滞税について
- 市内の交通事情



# 世界最先端のエコ・タウン ハンマルビィ・ショースタッド

---



ストックホルム市の  
自然循環型都市開発プロジェクト

---

# ハンマルビー臨海都市(ショースタッド)って？

---

- 以前は町工場などの軽工業があったストックホルム最大の汚染地帯だった
- オリンピックの村への開発計画から世界一のエコタウンへ
- 1990年代から再開発計画がスタート、街の最終的完成予定は2015年
- 再開発面積は約200haとストックホルム近年最大のプロジェクト
- 『環境にやさしく、持続可能な社会』がキーワード。
- スtockホルム市、水道局、Fortumという電力会社の3つが出資しているプロジェクト
- 現在プロジェクトの約3分の1が終了、プロジェクト終了年には10000の住宅が建設され、人口の20000人になる予定

資料: GlashusETTパンフレットより

---



# 都市開発の失敗と課題

---

- デザインに集中しすぎて、エネルギーの使用量が計画段階よりもオーバーしてしまった
- 子育てが終わった年配者が住人の対象だったが、結果、小さい子供を持つ30代の家族が住み始め、計画にはなかった保育園、学校など作ることとなった
- ゴミ収集車による騒音
- 計画当初から駐車場を少なく作られたが、駐車場が足りないと住民から不満が多く出た
- 数社の建設会社により住宅が建設されたため、バリアフリーの設備が統一されていない

# ストックホルム市内の渋滞税について

- 市内の渋滞問題を解決するためにまずは2006年1月から7月まで実験が施行され、本格導入は2007年8月1日より
- スtockホルム市内に出入りする車に課税されるシステム
- 月曜一金曜の平日 時間帯により課金(180円から360円)
- 実験前は住民の反対が多かったが住民投票の結果導入が決まった(民主主義的な決定により)

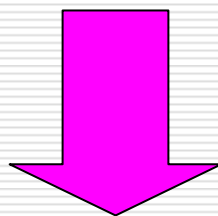


# 渋滞税における誘導政策

---

- エコカーは渋滞税免除
- エコカーは市内駐車料金無料
- 公共の乗り物の料金が安くなった

実験後の調査



市内の交通量が25%ほど減少した

# 世界一税金の高い国の“お徳”なくみ 日本にはない政策とは？

---

- 炭素税の導入1991年
- 化石燃料などの炭素の含有量によって課金されるシステム
- 住宅・サービスセクター(民間施設、病院、高齢者福祉施設)におけるCO<sub>2</sub>の排出量が1990年～2003年に国全体で40%削減に成功！
- 地域暖房の燃料を石油から炭素税の安い木質バイオマスに燃料に切り替えコスト安に。
- 環境税を政策として使い、環境にも国民の経済にプラスになるようにしたことを示した政策



## ストックホルム市内のバス

すべてバイオガス  
エタノールで走るバス



# バイオガス給油所11か所



# エコ・タクシーの普及



市内を走る葉っぱマークのタクシー

# 自転車専用道路の整備



自転車での通勤する人々



# 乗り捨てOKー自転車レンタルサービス

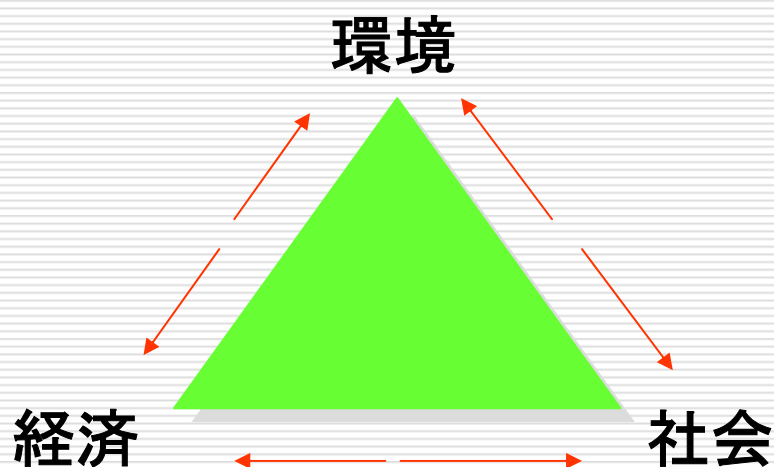


ストックホルム市内地下鉄駅付近に設置してある

# 持続可能な自治体の姿とは？

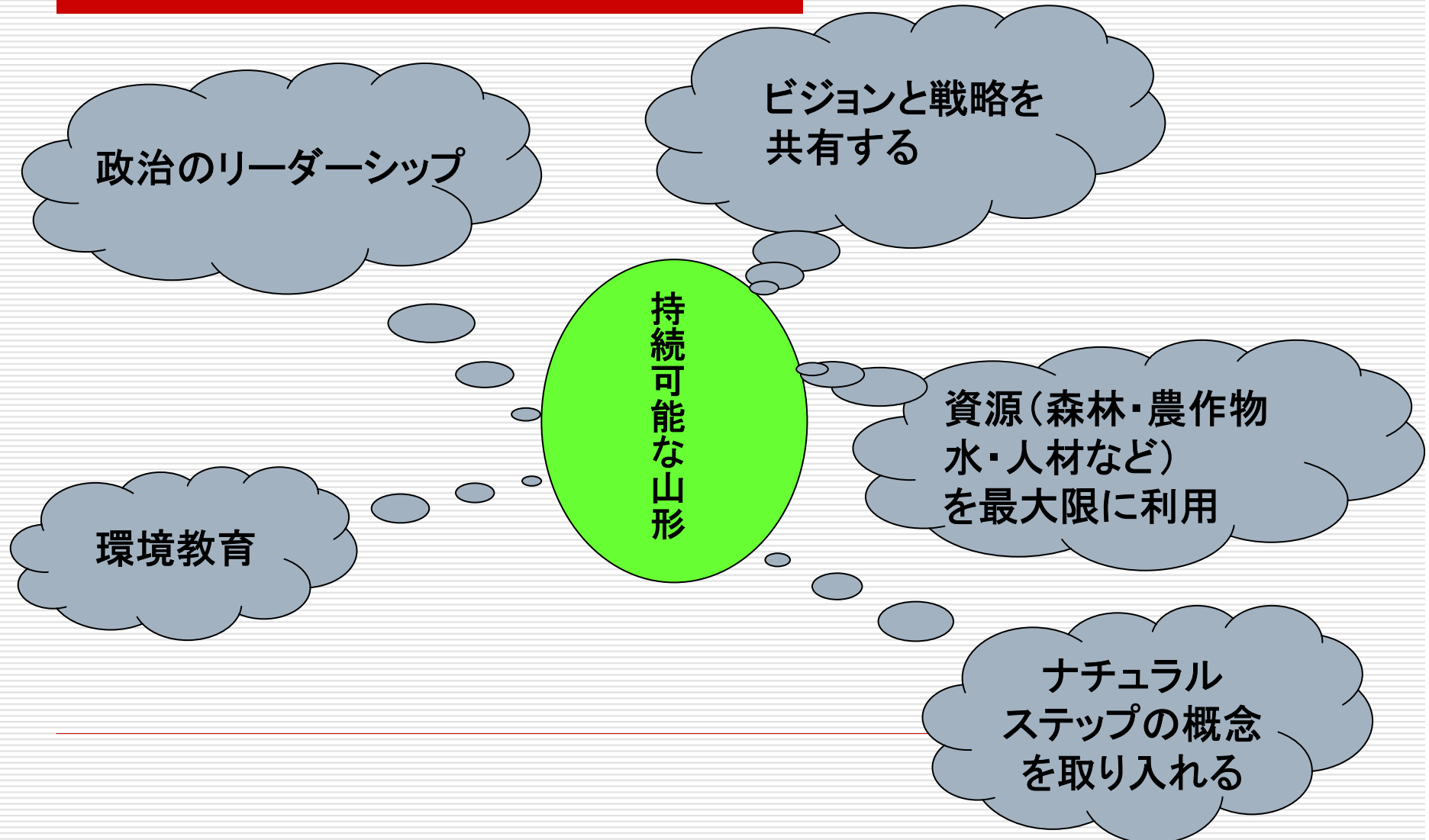
---

- 地方分権が進んだ社会→政治の決定はその影響を受ける人の近くでされるべき。
- 民主的な決定ができる社会
- 環境・経済・社会の3つの側面が満たされている社会



# 山形の将来、成功への鍵

---



# 日本で最初の持続可能な山形になろう！

山形発 環境マイスター



へらすべ CO<sub>2</sub>  
未来のこどもたちのために・・・

チーム・マイナス6%  
“もったいない”やまがたECOチャレンジキャンペーン

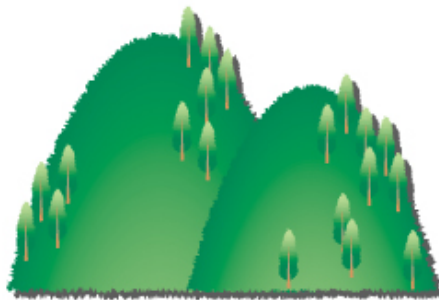
COOLBIZ

山形県ごみ減量化推進キャラクター



愛称：スリムくん

山形緑環境税



やまがた的

グリーン・ツーリズム

